

研究発表会 質問・感想に対する回答

令和8年1月

教科	質問	回答
生活科 ①	低学年の児童が言葉で表現することが難しいときの支援や、日頃から活用できる指導方法があれば教えてください。	<p>生活科の表現方法は、いろいろあってよいと考えています。</p> <p>振り返りで使用する「記録カード」は、言葉だけでなく、絵で表現することもよいとしています。絵のみの児童には、「前のアサガオと同じところ・違うところはどこかな」「どのおもちゃが楽しかったのかな」等と、詳しく聞きます。児童が答えてくれた言葉を空いているところに追記するよう声を掛け、言葉での表現が少しずつできるように指導をしています。</p> <p>また、他の教科でも対話の技術を高める活動や語彙を増やす活動を取り入れています。</p>
生活科 ②	児童が「改良したい!」や「もっとよくしたい!」と思わないときには、どのようにアプローチをすると効果的でしょうか。(アプローチの仕方を複数教えてほしい)	<p>本人が自分のおもちゃに納得しているようであれば、友達のおもちゃで遊ぶように促します。友達のおもちゃで遊んで気付いたことを聞き、自分のおもちゃに生かしてはどうかと働きかけます。また、「学級全体で遊ぶためには」「他学年と交流するためには」と単元のゴールの見通しがもてるようにします。おもちゃの難易度を変えたり、ルール作りをしたりする等、別な視点からおもちゃを見つめ直せるような活動も取り入れています。</p> <p>その他に教員が「もっと〇〇したらどうかな?」と具体的に、どのようにするとよいのかアドバイスをしたり、一緒に作ったりします。</p>
生活科 ③	学級オリジナルの活動やネーミングを行っているようですが、学び方が変わる場合は、どのように揃えていますか。	<p>単元を始める前に打合せを行い、ベースは揃えています。授業を行い、出された思いや願いを日々学年で共有し、方向性を確認するようにしています。事前の打ち合わせで出されなかった思いや願いが出てきたときには、柔軟に対応できるようにしています。また、学年共通の掲示板を使用し、他の学級がどのような活動をしているのか児童にも分かるようにしています。</p>
生活科 ④ 生活 単元 学習	1年生の生活科とひまわり学級の生活単元を参観させていただきました。児童が楽しみを見付けながら活動したり、1年生ながらアドバイスし合い友達と関わりながら学習したりする姿が大変勉強になりました。ひまわり学級も、このようにして実生活につながる学びを意欲的にしかけるのだなと思いました。インフルエンザで大変な中、貴重な機会をありがとうございました。	<p>ご感想ありがとうございました。</p>

<p>生活 単元 学習①</p>	<p>学びの3つのサイクルの「ひろげる」段階で、既習の内容を生かして学んだことをつなげることは、難易度が高い気がします。どんなことに気を付けて支援しているか、具体的な手立てはどのようなものか教えてください。</p>	<p>「ひろげる」には、2つの意味があると考えています。1つめは、活動自体をステップアップすることです。今年度の学習では、1学期の買い物学習の体験から、「自分たちもお店屋さんをしてみたい。」という声上がり、2学期の「ひまわりマーケット」の学習にステップアップすることができました。2つめは、活動の中で必要な学習へつなげることです。買い物をするためには、お金の計算をしなければいけません。発達段階に応じた計算を算数で学習しました。このように、児童の思いや実生活に寄り添い、体験を振り返ったり、体験へ向けて必要な学習に取り組んだりすることで、学習が広がり深まります。</p>
<p>理科①</p>	<p>これまでの既習事項や経験を根拠に予想を立て、見通しを立てて計画をし……という、理科学習の仕方が児童に身に付いた授業で、勉強になりました。以前理科専門の先輩教諭から、予想が大事と教えて頂いたことがあります。今回見た学年の授業では、丁寧にそこを扱っておられたので、素晴らしいなと思いました。実際に自分の仮説を確かめる様々な場の設定、教材教具も工夫され、児童が自らすすんで学んでいて、自分が理科を教える際の参考になりました。参観した私も楽しい授業でした。ありがとうございました。</p>	<p>ご感想ありがとうございます。</p>
<p>理科②</p>	<p>自分の考えを少人数グループで話し合い、それをホワイトボードにまとめて全体で共有し、一つの問題や結論にまとめていく過程がどの学級にも見られ、勉強させていただきました。</p> <p>出た考えの中から学級で一つの『結論』や『問題』を決める際、提示したホワイトボードの中から「一つの問題や結論を導く」というよりは、選んでそのまま決定という流れを複数の授業で拝見しました。考えを比較検討して児童が共通点を見いだしたり、なぜそれを選択したのかを授業者が問いかけなかった経緯や理由があれば、知りたいです。学級閉鎖や学年閉鎖もあった中での研究発表の準備、授業の実施等、大変だったと思います。先</p>	<p>ご意見、ご感想ありがとうございます。</p> <p>ご意見いただいたように、児童自身が「比較検討」し「共通点を見いだす」ことができるようにすることが大切です。時間の関係で十分な指導ではなかったようですが、日頃はそのような授業になるよう努めていきます。</p> <p>選択した理由を学級全体で明確にすること等を意識し、今後さらに授業力を高めていきます。</p>

	<p>生方、本当にお疲れ様でした。</p> <p>上記の質問について、考えを比較検討して児童がその中から共通点を見いだしたり、なぜその考えを選んだのかを授業者が発問したりして、児童の見方・考え方を引き出し、価値付けることが児童の深い学びにもつながるのではと考え質問させていただきました。ありがとうございました。</p>	
理科③	<p>子供たちが深く考えている姿が素晴らしいと思いました。ありがとうございました。</p> <p>理科の研究を通じて、先生方の授業づくりに変化があったことがあれば教えてほしい。</p>	<p>研究教科で、教員・児童共に身に付けた「問題解決する授業展開」を基にして、他教科でも、その教科の見方・考え方を踏まえ、同じように授業を展開していけるようになっていきます。児童が見通しをもって学習を進めていくことを意識して、日々の授業づくりをしています。</p>
理科④	<p>本日はありがとうございました。</p> <p>子供たちが、楽しそうに活動していた姿が印象に残りました。また、各学級で、実態に応じて工夫されていたので、授業の流れもスムーズでした。準備等、お疲れ様でした。</p>	<p>ご感想ありがとうございました。</p>
理科⑤	<p>仮説の根拠の「視点」の中に、「他のことで例えられるか？」というものがありますが、「他のこと」で例えると科学的でないことも出てきそうです。それを根拠としても適切なのですか。</p>	<p>指導を始めたときには、根拠にどのようなことを考え、記述すればよいか分からない児童も多かったです。特に電気に関する学習では、生活経験や学んだことから予想の根拠を見付けることは難しく、そのために相手に納得してもらおう説明として「他のことで例えて」もよいことにしました。例えば電池を直列つなぎで1つから2つにすると、電流も大きくなることを「服は1枚より2枚重ねて着た方があたたかく感じるように～」と記述した児童がいました。感じたことなので、科学的ではないですが、相手には分かりやすい説明だったようです。</p> <p>最初は感じたことで根拠を考えている児童も、実験等で結果を出す際は数値等で表すと誰からも納得してもらえると経験を重ねていくことで、根拠としてどのようなことがふさわしいか判断できるようになると考え、指導しています。</p>
理科⑥	<p>5年「流れる水と土地」の単元では、単元を通して野川を教材として扱っていました。野川以外の川への一般化はどのように図るのでしょうか。</p>	<p>単元計画の中で、一般化を図る時間を設定しています。</p> <p>動画や写真を使って他の川でも同じようなことが起きていることを確かめながら、一般化していきます。</p>
理科⑦	<p>予想や考察が書けないという児童がいます。</p>	<p>「予想」の場合は、予想が出たところで友達のことを示し、「どの考えが一番近いか？」</p>

	どこまで、どのような指導をしているのでしょうか。	<p>と問い掛け、選ぶように促しています。また、タブレット型端末で共有する場合も友達のことを読み、似ている考えを選んで記述するように促しています。</p> <p>「考察」の場合は、ノートにコメントを書いたり、机間指導する際に書けない児童を重点的に見たりするようにしています。その場で直すよりも、次に考察を書くときに生かされるようにすることを目指して指導を続けています。</p>
理科⑧	問題や結論を「個人」→「グループ」→「全体」と3回も書いたり、検討したりするのはどうしてですか。	<p>一人一人が問題解決の力を身に付ける必要があるため、まずは個人で考える時間を設定しています。例えば、3年生は主に差異点や共通点を基に、問題を見いだすといった問題解決の力の育成を目指しているため、その時間や活動を十分取るようにしています。その後、学級全体で一つの問題にしていくことで、同じ目的で問題を解決できると考え、授業づくりをしています。一人一人の考えた結論をもちより、学級の結論を導き出す過程で「より妥当な考えをつくり出す力」を身に付けていくことが大切だと考え、その時間を大切にしています。</p> <p>なお、「個人」→「全体」と、「グループ」活動をはさまない流れもあり、実態や内容に合わせて変えています。</p>
理科⑨	「予想」と「結果の見通し」の違いは何ですか。同じように感じました。	<p>「予想」は問題に対しての考えです。問題を見いだした後に考えます。</p> <p>一方「結果の見通し」は観察や実験の「計画」を立てた後、「自分の予想を基に、この観察・実験をすると結果はどうなるか」と考えたことです。実験を想定しながら考えます。</p>
理科⑩	6年「てこ」Bの授業では、どのように問題を見いだしたのでしょうか（「はさみやくぎ抜きはてこのはたらきが利用されているのだろうか」という問題）	<p>児童が考えた「てこ」だと予想した道具の中から、児童が「共通して使用したことのあるもの、学校で道具の数が揃うものをみんなで考えていこう」という話合いになりました。今回は「はさみ」と「くぎぬき」がこれにあてはまったので、「はさみやくぎ抜きはてこのはたらきが利用されているのだろうか」という問題になりました。</p>
理科⑪	学んだことと日常生活を関連付けるために心掛けていることは何ですか。	<p>「生活の中で学んだことと似たようなことはありますか」と問い掛けるようにしています。具体例を書いたり、発表したりすることで、改めて毎日の生活を見直すことにつながると考えています。また、問題を見いだす活動で、普段児童が触れているものを使うことや、予想の根拠を考えるときに、友達と共有する時間を十分取ることで、日常生活にえつながら意識できると考えています。</p> <p>研究教科に限らず、どの教科でも日常生活との話をして、生活との関連を図ることの重要性を伝えています。</p>